

平成23年度保健福祉部業務研究等報告会

## 大好きなばあちゃんと一緒に暮らすために ～Aちゃんが仮設住宅で生活ができるようになるまでの支援について～

宮城県気仙沼保健福祉事務所  
理学療法士 後藤 博音



<連携・支援協力機関>  
南三陸町、登米市

宮城県東部保健福祉事務所登米地域事務所、宮城県拓桃医療療育センター  
宮城県立追支援学校、宮城県立気仙沼支援学校  
登米・気仙沼圏域の介護・福祉関係事業所 ほか

平成24年2月2日(木) 県庁1階 みやぎ広報室

## はじめに

東日本大震災により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、気仙沼圏域の復興のため御尽力いただいた関係者の皆さまに深く敬意を表します。

本報告では、気仙沼圏域在住の**重症心身障がい児**が被災後、新たに**仮設住宅**生活を始めるまでの**県3機関**が**連携**して行った**支援**について紹介致します。

## 報告の流れ

1. Aちゃんの紹介
2. 被災時の状況 & 支援のきっかけ
3. 現状と課題 & Aちゃんと祖母(ばあちゃん)の思い
4. 支援のポイント & 具体的取組  
(社会資源、教育環境、仮設住宅の住環境等の調整)
5. 現在の状況 & 検証

## Aちゃんの紹介

ばあちゃん  
大好き♡



(イラスト) Aちゃん所属「拓桃支援学校転校時に贈られた色紙」より抜粋

## 被災時の状況

- ・津波により**自宅は消失**。
- ・家族は**全員無事**。
- ・家族とともに町内の避難所へ避難後、石巻赤十字病院へへり搬送。県立こども病院を経て、3月25日より**拓桃医療療育センター**へ被災による**ばあちゃんのレスパイト(休息)**目的で入院。
- ・入院中、家族は隣接する**登米市内の仮設住宅**へ入居。

## 支援のきっかけ

- ・拓桃医療療育センター・リハビリ担当者より、気仙沼保健福祉事務所・地域リハビリ担当者へ問い合わせ(7月中旬)  
「Aちゃんの**退院後の住まい**や**支援**を考える時期にきている。現在の気仙沼圏域の状況を教えて欲しい。」
- ・南三陸町・担当保健師に確認。同保健師とともに仮設住宅在住の**ばあちゃんのもとへ訪問し現状把握**。(7月27日)

## 現状と課題(7月27日現在)

- ・**町外の仮設住宅へ入居**
- ・入院中も、**週末は仮設住宅へ帰宅**
  - Aちゃんは、ばあちゃんと一緒にいられることが楽しみ
- ・ばあちゃんが**すべての介護**を行っている
- ・仮設住宅の限られた**スペースでの生活の限界**
  - 成長期でAちゃんの身長も伸びてきている
  - 玄関先まで**車いす**で行けない&車いすのまま部屋に入られない
  - **お風呂**に入れない

## Aちゃんとばあちゃんの思い

Aちゃん

「**大好きなばあちゃんと一緒に暮らしたい!**」

ばあちゃん

「可能な限り、できるだけ長くAちゃんと一緒に暮らしてあげたい。」



(イラスト) Aちゃん所属「拓殖支援学校転校時に贈られた色紙」より抜粋

## 支援のポイント

震災をきっかけに、

- ・**以前住んでいた町と新たに住む市**が変わることで
  - ① キーパーソンになる**保健師**が変わること
  - ② **社会資源**、**教育環境**が変わることを調整すること。
- ・**仮設住宅**で生活するにあたり、**バリアフリー化**、福祉用具の導入等の**住環境調整**を行うこと。

## 具体的取組(各機関の連携)

時期	内容	備考
7月中旬	問い合わせ	・拓殖→気仙沼HC ・気仙沼HC→南三陸町
7月27日	確認訪問(仮設住宅)	南三陸町保健師+気仙沼HC地域リハ担当者
8月上旬	退院調整	南三陸町や拓殖(地域・家族支援部)
8月22日	退院調整会議(拓殖医療・療育センター会議室)	出席者:(家族)ばあちゃん(拓殖医療)医師1名、MSW1名、看護師2名、実務1名、リハ職員2名(拓殖支援学校)教師2名(南三陸町)保健師1名、事務1名(迫支援学校)教師2名(うち、養護教諭1名)、看護師1名(気仙沼HC)地域リハ担当者1名

## 退院調整会議での確認事項

- ・家族の希望を考慮し**9月下旬に退院**の方向で各種支援サービスや仮設住宅の住環境を整備する。
- ・各種支援サービスについては、南三陸町保健師から**登米市保健師**に確認・相談し、家族に情報提供する。
- ・学籍を気仙沼支援学校から**迫支援学校**に移す。
- ・医療的ケアや緊急時医療については、主治医(田中医師)から**登米市内の医師**へ紹介状を出す。
- ・仮設住宅の住環境調整については、**登米と気仙沼の保健福祉事務所**の地域リハ担当者(理学療法士)が対応する。

## 具体的取組(各機関の連携)

時期	内容	備考
8月下旬	支援調整	南三陸町→登米市
8月30日	支援に係る打合せ(登米市庁舎)	出席者:(登米市)保健師1名、事務1名(南三陸町)保健師1名(登米HC)地域リハ担当者1名(気仙沼HC)地域リハ担当者1名
9月上旬	サービス調整	・登米市→サービス担当者(相談支援事業所・相談支援専門員) ・相談支援専門員やばあちゃん
9月28日	支援者会議(仮設住宅内集会所)	出席者:(家族)ばあちゃん、(登米市)保健師2名、(南三陸町)保健師1名、(迫支援学校)教師2名、(サービス担当者)相談支援事業所職員2名、生活介護事業所(登米市)日中一時支援事業)職員1名、訪問看護事業所職員1名、(登米HC)地域リハ担当者1名、(気仙沼HC)地域リハ担当者1名

### 支援者会議での確認事項

- ・家族の希望により、9月27日に拓桃を退院した。
- ・南三陸町から**住民票**を移し**登米市民**になった。
- ・**迫支援学校**に9月29日より**在籍・登校**する。
- ・登米市内の相談支援事業所の**相談支援専門員**が**ケアプラン**を作成した。

<利用サービス>

- ・登米市日中一時支援事業による生活介護(入浴支援あり):週4回
- ・訪問看護:週1回
- ・短期入所:7日

### 具体的取組(住環境の調整)

対応日	対応者	対応内容
9月6日	南三陸町保健師 登米HC地域リハ担当者 気仙沼HC地域リハ担当者	・寒いすの玄関までの出入りの検討 (スロープまたは昇降機の設置) ・ <b>ベッド、マット、ボール</b> の検討
9月15日	同上	・ <b>スロープ</b> 形状及び寸法の検討 ・ <b>ベッド</b> の配置の検討 (福祉用具販売事業所職員の同行)
10月7日	同上	スロープ建造の確認(大工棟梁の同行)
11月11日	同上	上記住環境調整後の生活状況の確認
12月14日	南三陸町保健師 登米HC地域リハ担当者	スロープ <b>増設</b> 及び <b>風除け</b> 増築の確認 (大工棟梁の同行)
1月20日	同上	上記住環境調整後の生活状況の確認 気仙沼HC地域リハ担当者

### 住宅改修の流れ(仮設住宅)



舗装道路

Aちゃん & あちゃん宅

祖父 & 叔父宅

通路幅2m60cm砂利道

改修内容のデザイン

どこから入る？  
玄関？裏口？

訪問1回目(9月6日)

茶の間

寝室

クローゼット

台所

洗冷

福祉用具の選定

ベッドはどこに置く？

スロープの幅は？

改修内容のデザイン

訪問2回目(9月15日)

大工の棟梁の確認後、  
いよいよ着工！

着工前の確認

訪問3回目(10月7日)

